

D-1518

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年12月19日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-368484

[ST.10/C]:

[JP2002-368484]

出 願 人

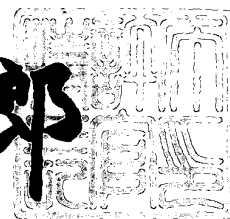
Applicant(s):

タカタ株式会社

2003年 6月26日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3050636

【書類名】 特許願

【整理番号】 P-10839

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

    【氏名】 横田 匡俊

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

    【氏名】 城島 和彦

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

    【氏名】 栗本 剛

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

    【氏名】 武富 章文

【特許出願人】

    【識別番号】 000108591

    【氏名又は名称】 タカタ株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100086911

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 重野 剛

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 004787

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1



【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 サイドエアバッグ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車両の座席の側方に配置され、ガス発生器からのガスによって膨張するサイドエアバッグにおいて、

該サイドエアバッグ内の下部にサブバッグが配置されており、

該サブバッグが該ガス発生器からのガスにより膨張し、

該サブバッグから流出したガスにより該サイドエアバッグの上部が膨張することを特徴とするサイドエアバッグ。

【請求項 2】 請求項 1 において、該サブバッグ内から該サイドエアバッグ内へガスを流出させる流出部が該サブバッグに設けられていることを特徴とするサイドエアバッグ。

【請求項 3】 請求項 2 において、該流出部を閉鎖しており、該サブバッグ内のガス圧が所定圧になるとこの閉鎖を解除してガスの流出を許容する閉鎖手段が設けられていることを特徴とするサイドエアバッグ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は車両とくに好ましくは自動車の座席の乗員を保護するためのサイドエアバッグに係り、詳しくは座席の側方において膨張するタイプのサイドエアバッグに関する。

【0002】

【従来の技術】

サイドエアバッグとして、自動車の座席の側方に配置され、インフレーター（ガス発生器）が作動することにより乗員の側方に膨張するタイプのものがある。

【0003】

特開 2 0 0 0 - 1 7 7 5 2 7 号には、このサブバッグ内をシーム（縫目）によって上下 2 室に分割し、インフレーターからのガスを上下 2 室に別々に、且つ下室の方が高圧となるように供給するよう構成したサイドエアバッグが記載されてい

る。下室を上室より高圧とするのは、胸郭部をソフトに受け止めるためである。

【0004】

【特許文献1】

特開2000-177527号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

上記特開2000-177527号では、サイドエアバッグの上室及び下室はほぼ同時に膨張する。

【0006】

本発明は、下室が上室よりも早期に且つ高圧に膨張するサイドエアバッグを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明のサイドエアバッグは、車両の座席の側方に配置され、ガス発生器からのガスによって膨張するサイドエアバッグにおいて、該サイドエアバッグ内の下部にサブバッグが配置されており、該サブバッグが該ガス発生器からのガスにより膨張し、該サブバッグから流出したガスにより該サイドエアバッグの上部が膨張することを特徴とするものである。

【0008】

かかるサイドエアバッグにあっては、ガス発生器が作動するとまずサブバッグが高圧にて膨張し、該サブバッグを包蔵したサイドエアバッグ下部も該サブバッグと共に膨張する。このように高圧にて膨張したサイドエアバッグの下部により、乗員の腰部は車両中央方向に押圧され、それに伴い乗員がドアから遠ざけられる。その後、このサブバッグから流出したガスによってサイドエアバッグの上部が比較的低下にて膨張する。このようにサイドエアバッグの下部を先に高圧にて膨張させ、乗員をドアから遠ざけることにより、サイドエアバッグの上部を余裕を持って膨張させることができる。

【0009】

本発明では、サブバッグ内から該サイドエアバッグ内へガスを流出させる流出

部が該サブバッグに設けられている構成とすることにより、サイドエアバッグ上部にサブバッグからガスを送り込むことができる。

【0010】

この場合、該流出部は、サブバッグ内のガス圧が所定圧になるとこの閉鎖を解除してガスの流出を許容する閉鎖手段によって閉鎖されてもよい。このように構成した場合には、サブバッグがさらに早期に且つ十分に高压に膨張する。

【0011】

【発明の実施の形態】

図1は実施の形態に係るサイドエアバッグの膨張図、図2はこのサイドエアバッグの構成図である。

【0012】

このサイドエアバッグ1は、2枚のパネルを重ね合わせ、それらの周縁部を縫合、接着、溶着などにより結合して袋形状としたものである。

【0013】

このサイドエアバッグ1内の下部にサブバッグ2が配置され、このサブバッグ2内にガス発生器3が配置されている。このサブバッグ2の上面部には、サブバッグ2からサイドエアバッグ1の上部に向けてガスを流出させる流出部として開口4が設けられている。

【0014】

このサブバッグ2も2枚のパネルを重ね合わせ、それらの周縁部を縫合、接着、溶着などにより結合して小袋状としたものである。サイドエアバッグ1の上部のドア側（乗員と反対側）のパネルにはベントホール5が設けられている。なお、2枚のパネルを重ね合わせてその周縁部を縫合する場合、平面縫いとなるため、縫合が容易である。また、ベントホール5は省略することもできる。

【0015】

図示はしないが、ガス発生器3からは複数本のボルトが図2（a）の紙面と垂直方向に突設されており、このボルトがサブバッグ2及びサイドエアバッグ1を貫通してサイドエアバッグ装置のケーシング（図示略）に連結される。そして、サブバッグ2を内包したサイドエアバッグ1が折り畳まれてこのケーシング内に

納め込まれる。このケーシングは、好ましくはシートバッグの側面部分に設けられるが、ドアの内面やシートクッションなどに設けられても良い。

【 0 0 1 6 】

図 1 において、自動車内の座席 1 0 は、シートクッション 1 1 とシートバック 1 2 と、ヘッドレスト 1 3 とからなる。

【 0 0 1 7 】

このように構成されたサイドエアバッグを備えた自動車が側面衝突したり横転すると、ガス発生器 3 が作動してガスが発生し、サイドエアバッグ 1 が膨張する。

【 0 0 1 8 】

この場合、まずサブバッグ 2 が高圧に膨張し、その後開口 4 を通ってサブバッグ 2 から流出したガスによってサイドエアバッグ 1 の上部が膨張する。特に本発明を限定するものではないが、乗員がぶつからない状態において、サブバッグ 2 内の最高ガス圧が 3 0 0 k P a 程度となるように膨張し、サイドエアバッグ 1 の上部は最高ガス圧が 1 0 0 k P a 程度となるように膨張する。

【 0 0 1 9 】

このようにサブバッグ 2 が早期に且つ高圧にて膨張し、まず乗員の腰部を受け止めつつ、車両中央方向に押圧し乗員をドアから遠ざけ、その間にサイドエアバッグ 1 の上部が膨張し、乗員の胸部をソフトに受け止める。なお、乗員がサイドエアバッグ 1 に押し当たったときには、ベントホール 5 からガスが徐々に流出する。

【 0 0 2 0 】

上記の開口 4 は、例えばサブバッグ 2 を構成する 2 枚のパネルの周縁部に部分的に未結合部（例えば縫合しない部分）を設けることにより形成することができる。この場合、開口 4 の近傍において、パネル同士を強固に結合するように結合補強部を設けてもよい。

【 0 0 2 1 】

なお、サブバッグ用パネルの全周縁を結合し、パネルの周縁以外の部分に流出部としての開口やスリットを設けてもよい。

【 0 0 2 2 】

上記実施の形態では開口4は常時開放したものとなっているが、テアシームや接着剤によって開口を閉鎖しておき、サブバッグ2内のガス圧が所定圧に達するとテアシームが切れたり接着が剥れたりすることにより開口が開放するよう構成してもよい。このようにすれば、サブバッグ2が著しく早期に且つ高圧に膨張するようになる。なお、テアシームの強度や接着剤の接着強度を選定することにより、サブバッグ2内のガス圧を調整することも可能である。

【 0 0 2 3 】

上記実施の形態では、ガス発生器3の全体をサブバッグ2内に配置しているが、サイドエアバッグ外にガス発生器の大部分を配置し、ガス発生器のガス噴出口部分のみをサブバッグ2内に配置してもよい。また、サイドエアバッグ外にガス発生器を配置し、ダクト部材によってガスをサブバッグ2内に導入するようにしてもよい。

【 0 0 2 4 】

【発明の効果】

以上の通り、本発明のサイドエアバッグによると、下室を上室よりも早期に且つ高圧に膨張させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

実施の形態に係るサイドエアバッグを備えた自動車内部の斜視図である。

【図2】

(a) 図は図1のII-II線に沿う断面図、(b) 図は(a) 図のB-B線に沿う断面図である。

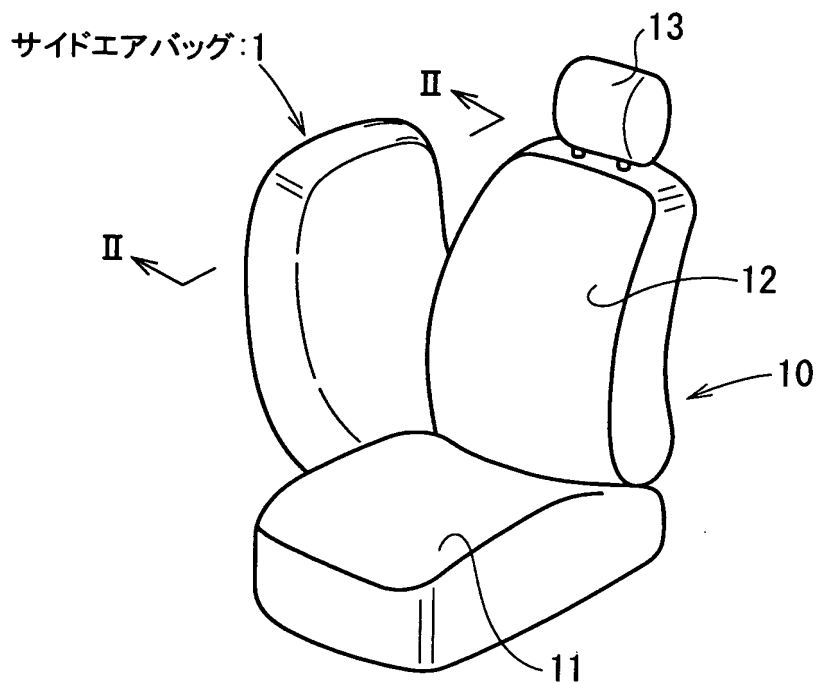
【符号の説明】

- 1 サイドエアバッグ
- 2 サブバッグ
- 3 ガス発生器
- 4 開口
- 10 座席

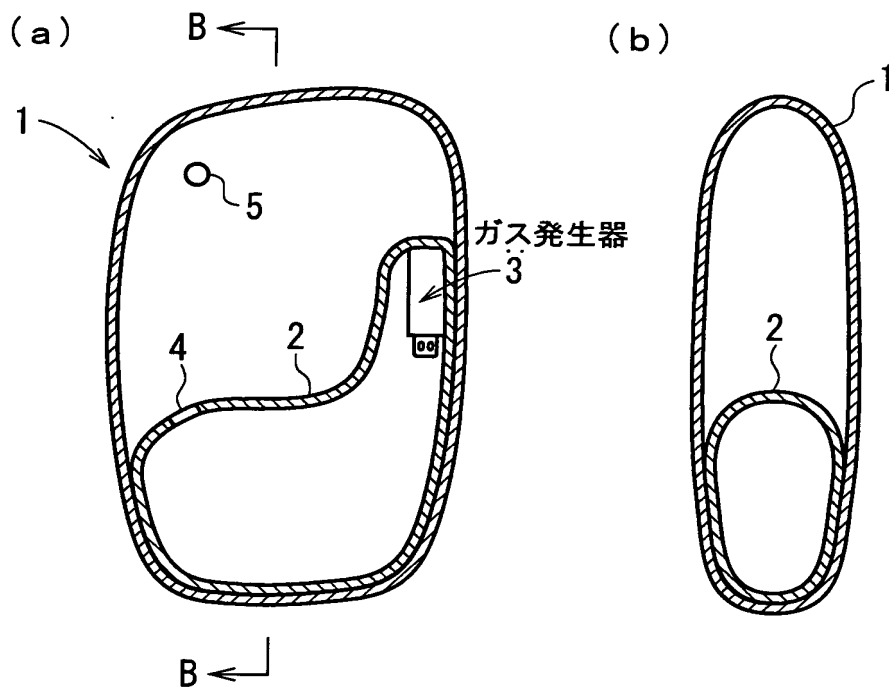


【書類名】 図面

【図1】



【図2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 下室が上室よりも早期に且つ高圧に膨張するサイドエアバッグを提供することを目的とする。

【解決手段】 サイドエアバッグ 1 内の下部にサブバッグ 2 が配置され、このサブバッグ 2 内にガス発生器 3 が配置されている。このサブバッグ 2 の上面部には、サブバッグ 2 からサイドエアバッグ 1 の上部に向けてガスを流出させる流出部として開口 4 が設けられている。ガス発生器 3 が作動すると、まずサブバッグ 2 が高圧に膨張し、その後開口 4 を通ってサブバッグ 2 から流出したガスによってサイドエアバッグ 1 の上部が膨張する。乗員がサイドエアバッグ 1 に押し当たったときには、ベントホール 5 からガスが徐々に流出する。

【選択図】 図 2

認 定 ・ 付 加 情 報

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 3 6 8 4 8 4
受付番号	5 0 2 0 1 9 2 7 9 9 0
書類名	特許願
担当官	第六担当上席 0 0 9 5
作成日	平成 1 4 年 1 2 月 2 0 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成14年12月19日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000108591]

1. 変更年月日

1990年 8月 7日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区六本木1丁目4番30号

氏 名

タカタ株式会社